

来年、北京で APEC が開催されます ～開催予定地訪問記～

北京事務所

1. はじめに

皆さんは北京にある「雁栖湖^{ヤンシー}」という湖を御存知でしょうか？

こんなありきたりなフリをして恐縮ですが、結果的にはほとんどの方は御存知ではないと思います。この名前を聞いて分かる人は恐らくはかなりの北京通です。しかしこの雁栖湖、中国国内においてはそれなりに名の知れた湖であり観光地です。周辺を彩る風景が美しいと評判で、春～秋のシーズンを中心に多くの観光客が訪れます。国家観光局による 4 A 級旅遊区にも指定されています。(※注)

(※注)

中国では、国家観光局によって各観光地が 5 A 級、4 A 級、…、A 級までの 5 段階で格付けされている (5 A 級が最上位)。格付けの根拠は、交通の利便性、特産物、みやげ物屋、観光資源、観光客数など。格付けはガイドブックに記載されている他、観光施設の入口に掲げられているプレートで確認することも可能。北京市内では、最上位の 5 A 級に万里の長城や故宮や頤和園など名だたる観光地が、雁栖湖と同様の 4 A 級には他に明十三陵や香山公園などが名を連ねている。

この「雁栖湖」も、来年世界に大きく報道され、知名度が向上すること間違いありません。というのも、2014 年 10 月の A P E C 首脳会議がこの場所で開催されることが先日発表されたためです。今さら説明するまでもありませんが、A P E C 首脳会議はアジア太平洋地域の各国首脳が一同に会する場で、その動向を伝えようと各国から多くの報道陣も集まります。当然多くの国々に向かって情報が発信されます。中国においては 2001 年の上海開催以来、13 年ぶりのホスト国となります。

さて、先日、その雁栖湖を訪れる機会がありましたので現地の様子を紹介したいと思います。

2. 雁栖湖の概要

雁栖湖は北京の市街地からは北へ約 60km、高速道路を使えば約 1 時間で行ける距離にあります。湖の北には万里の長城にも連なる山々、南には広大な華北平野に面しており、植物が織り成す景色は素晴らしいと評判のリゾート地となっています。雁栖湖には観光客向けのプログラムも揃っており、大型客船やボート、スワンボートなどのボート類、パラ

セーリング、水上オートバイやモーターボートなどの水上アクティビティーが揃っています。また、雁栖湖でバカンス、レジャーを楽しむ観光客のため、湖の周囲には 30 箇所あまりのホテルやレストランが既に整備されています。

3. 現地の様子

訪問したのは 11 月中旬の晴れた日、現地では何人かの観光客にも出会いましたが、それ以上に工事関係者の姿が目立ちます。来年 10 月の会議に向けて、今まさに会場や周辺インフラの建設ラッシュに沸いているのです。至るところで重機や作業車が見られ、工事が進められています。APEC 首脳会議の会場となる会議場や首脳らが宿泊する建物などの多くは、今回、新たに建設されるものです。建設現場そのものを見学することはできませんでしたが、工事現場を囲む防護柵には施設の完成予定図が掲示されていました。見たところ、会議場は、屋根の両端が釣り上がったシャープなデザインで建設され、首脳宿泊棟は豪華な外観の一戸建てで、さながら別荘のような佇まいです。また、これら会議場や首脳宿泊施設の立地する場所も特徴的です。湖に浮かぶ島に建設される予定ですが、この島自体元々存在するものではありません。現状でも陸続きになっている土地を来年の開催時に向けて、周りに水路を張り巡らせて切り離すことで整備される島なのです。現地では名前が「核心島」と名付けられていましたが、この「核心島」の上にこれから施設が建設されることとなります。

周辺でも活発に工事や建設作業が行われており、大きな球体型のホテルが建設されていたり、会場へと続くアクセス道路が整備されていたりします。現地は山々にも近いですが、トンネルを掘り進める工事の様子も見受けられました。

現地では来年秋の開催に向け、急ピッチで工事が続けられることとなります。



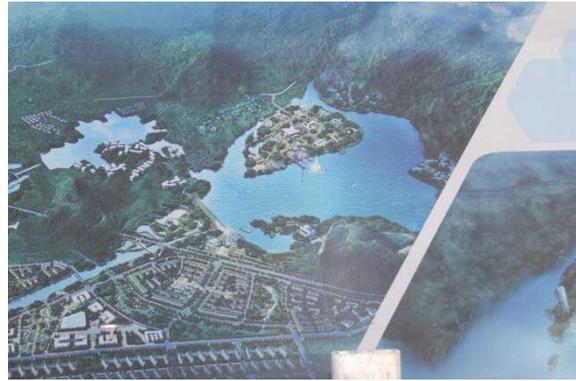
建設が進む会議場や宿泊棟の様子。現在は陸続きだが、計画によれば、この周辺自体も開催時には周りに水を張り巡らせて一つの島（核心島）となる模様。



周辺に建設中の球体型をしたホテル



会場周辺部も整備が進む。上の写真は、会場へとつながるアクセス道路の建設現場。トンネル工事を進めている。



会場計画図。中央やや上に浮かぶ島が、会議場や宿泊棟を整備している「核心島」



会議場の建設予定図



宿泊棟の完成予想図の一例。核心島内に宿泊棟は多数建設されるが、全てデザインは異なる

4. 開催に向けての課題

さて、そもそもなぜ郊外のリゾート地で開催されるのかということ、最近の APEC やサミットが郊外で行われるのと同様に警備上の要因もありますが、北京市当局からするとさらに狙いがあるようです。一つには、北京市当局が語ったように「自然や歴史が残りつつも、現在技術も駆使しながら整備された美しい郊外を外国首脳に見てもらいたい」ということです。経済発展が進んだことで、郊外部も整備され都市化が進展しています。そこを外国首脳に見てもらうことで中国の力を示したいという思惑があります。

もう一点は、皆さんもお分かりかも知れませんが、大気汚染への対応です。北京市中心部は報道で見ると深刻な大気汚染に襲われる日も少なくありませんが、それに比べれば、郊外は汚染状況が比較的良好であることが知られています。

大気汚染は中央政府や北京市としても非常に頭の痛い問題で、相次いで大気汚染にむけた計画が発表されています。10月21日には、北京市が「北京市大気汚染応急プラン」を制定、3日間連続して嚴重汚染（PM2.5 の数値が 250~500 μg に相当）が予測され

る場合には、市内の学校の休校、土木工事の停止などに加えて、全市で自動車のナンバープレート偶数奇数による通行規制を行う（＝偶数日には偶数ナンバーのみ運行可とする）ことを発表しました。11月5日にも、市内の新規乗用車登録について、年間24万台までとしている現行規制を、来年2014年から15万台とする方針を明らかにするなど、対策を強化しています。

しかし、大気汚染に対する対策は過去にも発表されてきたことで、それにもかかわらず、なかなか成果が出ていないのが現状です。特効薬となるような対策がない中、首脳会議の会場としてこのような郊外に狙いをつけたという可能性も捨て切れません。

もちろん、郊外といえども大気汚染がゼロというわけではなく、激しい大気汚染の日も存在します。決して排出源がなくなったわけでもありません。APEC 開催を一つのきっかけとしてでも、より強力で効果的な対策の実施が期待されます。

5. さいごに

13年ぶりのホスト国として APEC に望むことになった中国。しかしその姿は 13 年前とは大きく変わりました。この間、日本を抜き経済規模では世界第2位に躍進、国際社会における存在感も著しく増加しました。来年の APEC では単なるホスト国としてだけでなく、国際社会のリーダーとして各国を迎え入れることとなります。

雁栖湖では準備が着々と進行しています。来年の開催時には素晴らしい施設が完成していることでしょう。しかし、開催に向けて大気汚染などの課題が残っていることも事実です。ぜひともそういった課題にも更に目を向け、素晴らしい会議を開催し成功してもらいたいと願っています。

(川島所長補佐 群馬県派遣)